

「グランドデザイン・大阪都市圏」(案)についての府民意見等の募集結果及び大阪府の考え方について

【募集期間】 平成28年11月18日(金曜日)から平成28年12月19日(月曜日)まで

【募集方法】 電子申請・郵送・ファクシミリ

【募集結果】 19名(うち団体1名)から、24件のご意見等をいただきました。(うち公表を望まないもの4件)

寄せられたご意見等と、ご意見等に対する大阪府の考え方は以下のとおりです。

該当箇所	意見等の内容	府の考え方
都市構造についての基本的な考え方	<p>グランドデザイン・大阪都市圏の基本的な考え方について、まずは「人」に主眼を置いている点が素晴らしいと感じました。多くの人が集う「都市」であるからこそ、さらに発展させていくためには、多様な人材が集まりやすい環境を整えることが一番だと考えます。交通の利便性の高さ、学術拠点の多さ、各種産業の展開の充実性、大阪は人材を集める上でのポテンシャルが高く、さらにその可能性を「人」に重点を置いた計画として推し進めることで、多様で豊かな人材がより集まり、魅力ある都市へとさらに発展すると考えます。</p> <p>現状を踏まえ、包括的に都市の在り方を考えるこのグランド・デザインは経済的にも文化的にも非常に意義のあるものだと思います。ぜひこのグランド・デザインが実現されて大阪がさらに魅力ある都市になることを期待しています。そして、若い人からお年を召した人まで、全ての世代の人が自分が住むまちを誇りに思い、さらに自分たちの街をより良いものにしていくという府民主導の街づくりに発展していくことを期待しています。</p>	<p>「グランドデザイン・大阪都市圏」では、都市の活力の源は「人」という基本的な考え方のもと、「人」の活動を中心に、都市構造を大胆にとらえなおし、「広域連携型都市構造」への転換を示しています。いただきましたご意見を参考に、より一層、魅力あふれる都市空間創造に取り組んでまいります。</p>
大阪都市圏の特性	<p>東西二極を目指す上で、大阪都市圏の特性について、首都圏の都市構造との比較を行うことで、より一層、自然との近接性や、広域連携型都市構造の必要性が鮮明になると考えます。</p> <p>また、都市インフラや自然に加え、人口や産業、歴史資産などについても、同様に首都圏との比較があればわかりやすいと思います。</p>	<p>今後、魅力ある都市空間創造に向けた取組を具体的に進める中で、必要に応じて、ご提案いただいたような各種データを整理してまいります。</p>
【基盤】交通(道路ネットワーク)	<p>大阪に住んでおられる方は東京に比べて圧倒的に車での移動が多いと思います。道路が整備されれば、物流の効率化はもちろんのこと、アクセス強化から場所の活性化を図ることができます。大阪市内から近くて遠い場所が淡路島になると思います。明石海峡大橋からのルートはありますが、神戸を通過してアクセスするにはかなり遠いと感じます。一方、和歌山方面へのアクセスは高速道路が整備されつつあることより、以前に比べてとても便利になりました。そこで、紀淡海峡をつなぐ路線を追加すれば、大阪と淡路島、ひいては四国のアクセスが格段によくなります。広域の連携を図ることにより、産業の活性化もみこめると考えます。紀淡海峡のルート建設を提案します。</p>	<p>P16の「交通(道路ネットワーク)」において、紀淡海峡を含む新太平洋国土軸の形成について将来の大きな方向性として示しています。いただいたご意見を参考に、「グランドデザイン・大阪都市圏」の具体化に向け、国や市町村や民間団体とも連携して取り組んでまいります。</p>

該当箇所	意見等の内容	府の考え方
【基盤】交通(道路ネットワーク)	<p>和歌山は今、人口減少が顕著で、商店街も閑散としています。このためには、県が単独で施策を講じるだけではなく、近隣の大都市である大阪府との連携は不可欠だと思います。</p> <p>今回、大阪府で示された、広域連携型都市構造の実現は急務と感じました。是非、グランドデザイン・大阪都市圏の具体化を早期に進めて頂きたいと思います。</p> <p>また、それぞれの都市が個性を発揮して連携し、関西全体が一大環状都市圏へと発展していくことができる紀淡連絡道路も不可欠であり、早期実現をお願いします。</p>	<p>P16の「交通(道路ネットワーク)」において、紀淡海峡を含む新太平洋国土軸の形成について将来の大きな方向性として示しています。いただいたご意見を参考に、「グランドデザイン・大阪都市圏」の具体化に向け、国や市町村、民間団体とも連携して取り組んでまいります。</p>
【基盤】交通(道路ネットワーク)	<p>「関西大環状道路」に興味があります。5年前の東日本大震災やその半年後に発生した紀伊半島大水害では救助や復旧等において交通網の遮断が大きな課題となりました。今年4月の熊本地震も然りです。わが国は、国土自体は大きくありませんが、様々な地域に住まう方がおられるため、「そこに行ける道が1本しかない」という状況は極力解消されるべきと思っています。また、復興過程においては、様々な地域からのアクセスが増加することを想定して幅の広い道路が途切れることなくつながっていることが理想と思います。また、災害対応に限らず、観光振興や地域の名産品の販路拡大などにもつながりますので、この施策は一層充実させてほしいと思います。</p>	<p>P16の「交通(道路ネットワーク)」において、将来の大きな方向性として、活力・成長を支えるための物流効率化や広域連携の強化に資する道路の整備を挙げています。いただいたご意見を参考に、「グランドデザイン・大阪都市圏」の具体化に向け、国や市町村、民間団体とも連携して取り組んでまいります。</p>
多彩な集客機能の集積を活かす	<p>日本の2極のうち1極を担う大阪と東京の大きな違いは、車が利用できるかできないかではないでしょうか。東京は鉄道の利便性が良いことから、都内中心部およびその周辺に住んでおられる方は車を持っている人が大阪に比べて圧倒的に少ないと思います。そこで、大阪におけるたくさんのストック・ポテンシャルを上げる方法の一つとして駐車料金の値下げを希望します。たとえば、テニスコート利用でトンボ池公園のテニスコートを利用した場合でも駐車料金が必要となってきます。一方、岸和田市のテニスコートでは一部を除いてほとんどの場所で駐車料金が必要ありません。利用者としては、テニスコート代を支払っていることもあり、駐車料金はやすくしてほしい、と考えます。すなわち、府の施設よりも、市の施設を優先します。駐車料金を下げることにより集客率が上がり、ストック・ポテンシャルが引き上げられるのではないのでしょうか。</p>	<p>P9の「多彩な集客機能の集積を活かす」において、多様なスポーツ施設などのストック・ポテンシャルを活かし、国内外から多くの人を訪れる圧倒的な魅力を備えた都市空間を創造することとしています。いただきましたご意見を参考に、より一層、魅力あふれる都市空間創造に取り組んでまいります。</p>

該当箇所	意見等の内容	府の考え方
【基盤】防災	<p>都市空間創造を支える基盤としての防災に関する記述は、南海トラフ巨大地震などによる津波への備えなど風水害への備えを推進すると一般的な表現になっています。説明図では、津波対策として木津川水門があります。現在、大阪府の津波対策は、安治川、尻無川、木津川に高潮対策用に整備された大水門を閉鎖することを中心とした暫定対策であると各種のパブリックコメントの回答で聞いています。</p> <p>この3河川の大水門を津波襲来時に閉鎖することは、東日本大震災で大被害を受けましたリアス式海岸を人為的に造り、人災を引き起こす可能性のあるリスクのある津波対策です。この3大水門閉鎖する津波対策について、各種審議会やパブリックコメントで説明を求めても論理的で合理的な説明はなく、さらに、大阪府は河川法に抵触する工事を行い既成事実を積み重ねております。そして、この津波対策は暫定措置であるとまで説明しております。</p> <p>このような暫定案では、日本の2極を形成する都市空間を作ることはできないと思います。</p> <p>また、台風に因る高潮対策が説明図に挙がっていません。最近の海域の温度上昇で大型台風が襲来する状況になっています。900hPaの台風が来れば、低気圧に因る吸い上げと風に因る吹き寄せで潮位は、現在計画されている水位から1m高くなります。現在の防潮堤では、守り切れず、到底、安全・安心な都市空間になりません。この様な大型台風から街を守るための1つの案としては、風に因る吹き寄せを防ぐ防潮堤を整備すれば、可能になると思います。また、このような防潮堤を整備すれば安全性を向上する津波対策になると思います。このグランドデザインを実現するためには、高潮対策と安全性を向上する津波対策が解るようにすべきだと思います。</p>	<p>P15の「【基盤】防災」において、将来の大きな方向性として、災害による人的・経済的被害の軽減に向け、南海トラフ巨大地震をはじめとする地震・津波への備えや、河川、下水道や砂防施設の整備など、風水害への備えを推進することとしています。いただきましたご意見を参考に、「グランドデザイン・大阪都市圏」の具体化に向け、国や市町村、民間団体とも連携して取り組んでまいります。</p>
大阪都市圏における都市空間創造の目標	<p>都市空間創造の目標を設定するにあたり、目標年次の2050年が、どのような社会になっているのかシナリが必要だと思います。</p> <p>例えば、NHKが2015年に30年後の2045年の生活空間を放送していた。アバターが、コンサートや演劇や世界旅行に行き、本人は家に居ながらそれぞれの楽しみを体感していた。これらを可能にしている物は、人工知能も含めICT技術の進展である。このような社会で最も必要とされる物は、情報インフラだと思います。アバターが活躍する社会になるかどうか分かりませんが、都市空間創造に情報インフラの整備を考え方が必要だと思います。これは、P.7に記載されているIoTを活用する産業集積のためにも必要だと思います。</p> <p>別の視点では、国は、新たなステージに対応した防災・減災の在り方について検討しており、台風については、気圧が900hPaという大型台風を想定しています。この時の水位上昇は、低気圧に因る吸い上げと風に因る吹き寄せで、現在の高潮対策で使われている水位上昇より1m高くなるとしています。もし、現状でこのような台風が襲来すれば、今の防潮堤では、高潮を防ぐことはできません。大阪府は、まだ、台風の大型化に対応する防災計画を作成していません。治水では、「人命を守ることを最優先とする」基本理念のもと「逃げる」「凌ぐ」「防ぐ」施策を行っています。このような状態では、大阪市の大半は、大被害を受けます。特に、防災の基本理念が「逃げる」ことを中心にされるようでは、企業や人々の財産は守れません。グランドデザインで記述されている産業集積を実現するためには、大型台風を視野に入れて、「人命と住民と企業の財産を守る」を基本理念とした「逃げる」ではなく「防ぐ」を基本に据えた防災計画の考え方を記述すべきだと思います。</p>	<p>P15の「【基盤】防災」において、将来の大きな方向性として、災害による人的・経済的被害の軽減に向け、南海トラフ巨大地震をはじめとする地震・津波への備えや、河川、下水道や砂防施設の整備など、風水害への備えを推進することとしています。いただきましたご意見を参考に、「グランドデザイン・大阪都市圏」の具体化に向け、国や市町村、民間団体とも連携して取り組んでまいります。</p>

該当箇所	意見等の内容	府の考え方
良好な居住環境を活かす	<p>「グランドデザイン・大阪都市圏」により、都市空間創造に向けての行政として方向性が明確に示され、今後、地域住民間の合意形成、民間企業の参画誘導が行いやすくなるものと、大変期待しております。</p> <p>「良好な居住環境を活かす」では、図には公的開発のみが示されていますが、民間等の開発による大規模ニュータウンについても、住んでいる方々が元気な内に再生を果たしていくことが重要です。このため、図並びに「ストック・ポテンシャル」には、独自で再生できる可能性を有する比較的大規模なニュータウン、樟葉、香里園、金剛等は記述し、短中期取組の「千里・泉北ニュータウンの再生」は、「大規模ニュータウンの再生」とされ、例示で千里・泉北ニュータウン等を示せばいかがでしょうか。現在、金剛ニュータウンでは、再生方針策定の動きが出ており、書き込むことで、さらに鉄道事業者やURなど、民間の力を取り入れた取り組みへと展開しやすくなります。</p>	<p>P12の「良好な居住環境を活かす」にある図には、公的開発のみだけでなく、民間事業者の開発による100ha以上のニュータウンの位置も示していますが、ストック・ポテンシャル欄では公的開発のみを記載しています。民間事業者の開発によるニュータウンも貴重なストック・ポテンシャルとして認識しており、こうしたストック・ポテンシャルを最大限に活かし、ライフデザインに応じた多様な居住環境が実現できる都市空間を創造していくこととしています。いただきましたご意見を参考に、より一層、魅力あふれる都市空間創造に取り組んでまいります。</p>
良好な居住環境を活かす	<p>今後の取組；千里・泉北ニュータウンの再生に関連し、富田林市の金剛ニュータウンをはじめ、各地に在する同等規模(中規模)のニュータウンについても多様な居住環境を実現できるポテンシャルを秘めていることから、それぞれ地域の特性に見合ったまちづくりについて、取組として位置けされることを希望します。</p>	<p>P12の「良好な居住環境を活かす」にある図には、100ha以上のニュータウンの位置のみ示しておりますが、これら以外のニュータウンについても貴重なストック・ポテンシャルとして認識しており、こうしたストック・ポテンシャルを最大限に活かし、ライフデザインに応じた多様な居住環境が実現できる都市空間を創造していくこととしています。いただきましたご意見を参考に、より一層、魅力あふれる都市空間創造に取り組んでまいります。</p>
豊かな自然環境を活かす	<p>「グランドデザイン・大阪都市圏」により、魅力ある都市空間の創造に向け、府・市町村、民間企業、住民等が共有できる目標が示され、今後の公民連携、広域連携に拍車がかかるものと、大変期待しております。</p> <p>「豊かな自然を活かす」短・中期取組の「都市近郊にある自然公園を活かした地域づくり」において、大阪南部のダイヤモンドトレールが示されており、また、大阪北部においても、東海自然歩道等の活用に、府県を超えて取り組まれております。隣接府県との連携の視点からも、この自然歩道を前面に出し、地元市町村や地域・民間の方々の取り組みを支えることが重要と考えます。表題を「都市近郊の自然歩道、自然公園を活かした地域づくり」としていただくと、地元市町村もイメージしやすく、取り組みやすくなります。</p>	<p>P10の「豊かな自然を活かす」において、長距離自然歩道や自然公園など貴重なストック、ポテンシャルと認識しています。こうしたストック・ポテンシャルを最大限に活かし、豊かなみどりや水辺をさらに楽しめる都市空間を創造していくこととしています。いただきましたご意見を参考に、より一層、魅力あふれる都市空間創造に取り組んでまいります。</p>
豊かな自然環境を活かす	<p>りんくうタウンのアウトレットそばのマーブルビーチの有効活用を提案します。マーブルビーチからは空港がよく見え、夕日の眺めはとてもきれいな場所です。海外ではこのようなビーチのまわりには必ずと言っていいほど、雰囲気のあるレストランやバーがあります。ところが、このマーブルビーチには1件もありません。おそらく、大阪府の公園となっていることから、飲食施設を建設することができないのではと推察します。関西空港から来られる外国の方がアウトレットだけよって帰国されることはあまりにももったいないと思います。規制を緩和して、民間の力を利用してはどうでしょうか。関西空港をよく利用するものですが、このビーチは世界に誇れるビーチになるといつも思っています。</p>	<p>「グランドデザイン・大阪都市圏」では、府営公園等の特色を活かしたにぎわい空間の創出を今後の取組としてあげています。いただきましたご意見を参考に、より一層、魅力あふれる都市空間創造に取り組んでまいります。</p>

該当箇所	意見等の内容	府の考え方
豊かな自然環境を活かす	<p>私は、自然公園の整備・管理の仕事に従事している者です。ランドデザイン・大阪都市圏(案)における「豊かな自然環境を活かす」として短・中期の今後の取組、「都市近郊にある自然公園を活かした地域づくり」には大いに共感するところです。できれば、この自然公園という範囲をもっと広い概念にはなるが、例えば「里地里山」も含めたものと捉えていただければよかったですと思います。</p> <p>都市部郊外に広がる自然公園を含む里地里山での地域づくりには、やはりその近くに居住されている地域住民の方々の「おらが村のまちづくり」を考える意識が何よりも重要で、その意識と行動を支える行政政策の方向付けが土台として打ち出す必要があります。私もこのランドデザイン・大阪都市圏(案)で示されている取組方向をしっかりと頭に入れながら、地域づくりというより広い施策を意識した自然公園づくり、利用促進などに取り組んでいきたいと思っています。</p>	<p>P10の「豊かな自然環境を活かす」において、都心から30km圏内に周辺山系等の大規模な自然を貴重なストック・ポテンシャルに含まれると認識しており、こうしたストック・ポテンシャルを最大限に活かし、豊かなみどりや水辺をさらに楽しめる都市空間を創造していくこととしています。いただきましたご意見を参考に、より一層、魅力ある都市空間創造に取り組んでまいります。</p>
多様な産業の集積を活かす	<p>該当項目で私として提案したいことがありますので、2つ書きます。</p> <p>まず最初に大阪には先物市場や大手生命保険会社が数社あるなど、金融産業が東京以外では一番発達しているように思えます。大阪市に提案すべき事なのかもしれませんが、国内先物市場を全て大阪に集約し、更に大手生命保険会社・損害保険会社の本社若しくは重要拠点を誘致する事を盛り込むべきではないでしょうか？</p> <p>もう一つはPMDAの関西支部の機能拡充です。やはり医薬品を一つ承認するにしても、多くの手続きがあり、その手続きのために東京へ出向かざる得ない状況が続いていました。最近ではPMDAが関西支部を設置し、更にテレビ会議システムによる対面助言も実現することが出来ました。これを全てFace to Faceで行えるようにしていくべきだと考えていますし、承認段階まで出来れば大阪でワンストップに行えるようにしていくべきだと考えています。大阪は医薬品産業・製剤製造業やライフサイエンス産業の集積がありますから、スムーズな承認を東京まで出向かずに済むことが出来るようになれば、より強みを活かしていけると確信しています。</p> <p>以上2つを提案させていただきます。</p>	<p>「ランドデザイン・大阪都市圏」では、民間主導により、人・モノ・情報・投資を呼び込める、府域全体の都市空間創造に向けた大きな方向性を示しています。いただきましたご意見のような、民間企業等の本社若しくは重要拠点を呼び込める都市空間創造に取り組んでいくこととしています。いただいたご意見を参考に、より一層、魅力あふれる都市空間創造に取り組んでまいります。</p>
豊富な歴史・文化の集積を活かす	<p>「豊富な歴史・文化の集積を活かす」短・中期取組の「優れた歴史・文化的資産を活かしたまちづくり」では、歴史街道、日本遺産認定、狭山池が挙がっています。富田林寺内町や枚方宿など、歴史的・文化的街並みを活かした街づくりが強力に進められており、さらに、岸和田城周辺、八尾久宝寺、貝塚駅前などでの展開も期待されるところです。このため、例示の二つ目として、「重要伝統的建造物保存地区など歴史的・文化的街並みを活かした魅力ある地域の形成」を挙げてはいかがでしょうか。市町村が取り組みやすくなります。</p>	<p>P11の「豊富な歴史・文化の集積を活かす」において、富田林寺内町や歴史街道など貴重なストック・ポテンシャルと認識しております。こうしたストック・ポテンシャルを最大限に活かし、他にない豊かな歴史・文化を身近に感じられる都市空間を創造していくこととしています。いただきました内容を参考に、より一層、魅力あふれる都市空間創造に取り組んでまいります。</p>

該当箇所	意見等の内容	府の考え方
大阪都市圏における都市空間創造の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・先ず計画は立案者側の一方的な物でない事ように ・必ず市民や利用者観光者に立った計画を(必ず弁証法に基づいて計画を) ・初期の斬新性を狙うだけでなく、常にそう有る様に絶えず進化する様に ・東京の様に形骸化された文化ではない、近畿の地の利と特徴を生かしたフレキシブルな気の利いた文化を <p>【観光としての企画提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通インフラの共通キップの発行 ・各クレジットカードを使用可能にするなど支払の単純化 ・公衆Wi-Fを設置 ・休憩出来る場所数多く配置 ・公園内に椅子など数多く配置 ・カフェなど(日本茶など)喫茶店など要所に配置 ・関空にアメリカ直行(ニューヨーク、ワシントンDC、ロサンゼルス)などの直行便誘致 ・関西でのトランジットを取り込むミニツアー 	<p>「グランドデザイン・大阪都市圏」の実現にあたっては、府、市町村、民間団体も含めた協議の場などの推進体制を構築していくこととしています。また、P11の「豊富な歴史・文化の集積を活かす」において、優れた歴史・文化遺産の集積を活かし、他にない豊かな歴史・文化を身近に感じられる都市空間を創造することとしています。いただきましたご意見を参考に、より一層、魅力あふれる都市空間創造に取り組んでまいります。</p>

該当箇所	意見等の内容	府の考え方
<p>多彩な集客機能の集積を活かす</p>	<p><提言> 「多彩な集客機能の集積を活かす」今後の取組み中・長期の項目に以下を追記する。 >国際観光エンターテイメント空間の創造 ・夢洲でのIR誘致とあわせた大規模MICE施設の整備並びに、中之島地区での大阪国際会議場の都心型MICE機能の強化、及び(仮称)大阪新美術館や大阪市立科学館・国立国際美術館等の文化集客施設等のポテンシャルを活かした賑わいのあるまちづくり <事由> ・中之島の主要な地権者企業など構成している「中之島まちみらい協議会」では、大阪府・市の上位計画等を踏まえて、「中之島まちづくり構想」を策定しています(2013年2月)。この中で中之島4丁目は「ミュージアムコンプレックスゾーン」というコンセプトのもと、既存の国立国際美術館、大阪市立科学館、及び(仮称)大阪新美術館をエリアの核とした、水都大阪を代表する広域集客拠点と位置づけ、また、5丁目は「グローバルコミュニケーションゾーン」というコンセプトのもと、既存のホテルや大阪国際会議場を活用しつつ、都心型MICE機能を強化するゾーンと位置づけています。 ・直近、4丁目では、今年8月に大阪大学が「中之島アゴラ構想」を市に提案し、爾後、中之島アゴラ構想推進協議会や中之島4丁目再生医療国際拠点検討協議会が設立されるなど、官民協働でのまちづくり検討が加速化しています。5丁目では、ホテル建替計画に合わせた街区全体での一体的なまちづくりの検討が地権者間で進められています。 ・MICEには、ビジネス・イノベーションの機会の創造、地域への経済効果、国・都市の競争力向上という効果があり、「グランドデザイン・大阪都市圏」の目標実現に不可欠な要素であります。また、大阪府大阪市は観光庁より「グローバルMICE都市」に選定されており(2013年6月)、国のMICE施策をリードする都市圏です。 ・中之島における「まちづくり構想」発表や、直近の中之島西部地区の活発なまちづくり検討の機を活かし、都心型MICE機能の充実をはかっていくチャンスがきていると考えます。 ・夢洲のIR構想によるMICE機能の誘致に加えて、中之島の既存ストックのポテンシャルを活かしつつ、大阪市内に複数のMICE拠点(郊外型(リゾート、カジノ付)、都心型)を整備することで、大阪の競争力を向上し、人・モノ・情報・投資を呼び込める都市圏にすべきと考えます。</p>	<p>P9の「多彩な集客機能の集積を活かす」において、多彩な集客機能を最大限活かし、圧倒的な魅力を備えた都市空間を創造することとしています。 お示しの中の島4、5丁目のにぎわい創出や国際会議場の活用につきましては、平成24年に策定した「グランドデザイン・大阪」における中之島・周辺エリアの今後の取組として、中之島西部地域の魅力向上を位置づけています。 今後、大阪都心部の将来像を示す「グランドデザイン・大阪」と大阪府域全域の将来像を示す「グランドデザイン・大阪都市圏」を合わせて、いただきました意見を参考に、より一層、魅力あふれる都市空間創造に取り組んでまいります。</p>
<p>多彩な集客機能の集積を活かす</p>	<p>提案は点としての集客施設の集積にとどまっており、それらを面的に展開し、周遊させるための具体性に乏しい。そのためにも国際的なアート、パフォーマンスなどのフェスティバル継続的、かつ事務局などの連携を行い、都市に装置として組み込む必要がある。広報を行い、持っている施設をフェスティバルでつなげるやり方で、ソーシャルメディアなどを通じた能動的な拡散を行うことで、広報予算を上回る効果が期待できる、いわば、観客も含めて自分が参加したという体験を売るのである。行政には都市活用、歴史的な文化施設などを規制緩和して、積極的に活用する。また特別区などで集客施設の誘致などを行いやすいように規制緩和を行う。警備などの予算を行事に回せるよう、積極性を発揮していただきたい。</p>	<p>P9の「多彩な集客機能の集積を活かす」において、多彩な集客機能を最大限に活かし、圧倒的な魅力を備えた都市空間を創造することとしています。いただいたご意見を参考に、より一層、魅力あふれる都市空間創造に取り組んでまいります。</p>

該当箇所	意見等の内容	府の考え方
<p>多彩な集客機能の集積を活かす</p>	<p>2016年12月15日、特定複合観光施設区域の整備の推進に関する法律案(以下カジノ法案)が可決された。このカジノ法案が可決されたことにより、日本にもいわゆるカジノを含む統合型リゾート(以下IR)の誘致が可能となった。IRのその高い経済効果は、魅力ある都市空間の創出の一助となるであろうことは言うまでもない。しかし、この項の取り組みについて、「IRの大阪誘致」が中・長期(2035～2050)の計画となっている。この項におけるストック・ポテンシャルや、短・中期の計画を活かすためには、優先順位を上げるべきであると私は考える。カジノ法案が可決され1年をめどに実施法が施行となる見込みであるが、私は日本で初めにできる可能性が一番高い場所が大阪であると考えている。それは、東京に次ぐ都市のひとつである、誘致に積極的である、整備された交通インフラあり、豊富な観光資源を有しているといえるからである。</p> <p>IRの誘致に関しては、官民連携が必須であるが、少々温度差を感じている。IRの大阪誘致の現実味を民間の企業にも実感してもらうためには、そこに自分たちのビジネスが成立すると思える基盤の整備が必要であると私は考えている。カジノ法案が可決されたが、関連業者以外の業種間では、「何かできないか?」「何ができるのか?」といったやりとりが散見される。今現状、IRの誘致に積極的な大阪ではあるが、民間の動きがまだ鈍いのではないだろうか。IRの恩恵を享受しうるその当事者として、この機会を最大限活かし、良い意味で利用できる方向性を行政から示していただきたい。埋め立ての計画や、誘致対象の区域において、企業誘致などに有効な規制緩和の方向性を議論していただき、国際観光エンターテインメント空間の創造、新たな交通拠点を活かしたにぎわい空間の創造を短・中期計画として取り組まれるようお願い申し上げます。</p>	<p>P9の「多彩な集客機能の集積を活かす」において、大きな方向性として、国内外から多くの人が訪れる圧倒的な魅力を備えた都市空間を創造することとしており、IRの整備については、「国際観光エンターテインメント空間の創造」に位置づけています。いただきましたご意見を参考に、より一層、魅力あふれる都市空間創造に取り組んでまいります。</p>
<p>具体化に向けて</p>	<p>長年にわたっての検討の跡がうかがえます。しかしながら、実現に向けて税制をどうするのが見えません。府民の共通課題の解決として公共福祉分野など市場原理になじまない事業は引き続き行政にならなければならないと思います。現在行政が税を使って実施している独立採算性の強い事業を民間にゆだねるというのは一つの方法だと思います。その場合、その分、行政の負担が軽くなるわけですから、府民が負担する税についても軽くすべきです。ただ、たとえば府民・市民の暮らしや経済の足となる移動手段は、地域づくりの重要な役割を担います。市場原理をもって判断していくと地域の営みが崩壊しかねません。</p> <p>府民・市民制の徴収の率や方法が今まで通りなら、民間にゆだねるメリットは行政内で発生しても府民や市民からみれば税の対価としてのメリットが発生しないとも言えるのではないのでしょうか。そういう意味で、税とランドデザインの実施をリンクさせて説明してほしいと思っております。</p>	<p>ご意見として承ります。</p> <p>なお、P19の「具体化に向けて」において、「行政主導」ではなく「民間主導」としており、規制緩和や公民連携などを促進し、民間が動きやすい環境を整えることで、民間の力を最大限に引き出すこととしています。また、現行制度の活用および制度的、財政的な課題について国等に働きかけをしてまいります。</p>